

10月食育だより

2025(令和7)年 10月
毎月19日は食育の日
八尾市立志紀中学校

10月は『世界食料デー』月間です！

10月は世界の食料問題について考え、行動する『世界食料デー』月間です。国際連合が制定した10月16日の『世界食料デー』にあわせて、企業や国連機関などが食料問題を解決するための活動や情報発信に取り組まれています。



世界にはどんな食料問題があるの？

大きな問題のひとつに「飢餓」があります。世界が2030年までに解決をめざす目標SDGs(持続可能な開発目標)でも2番目に『飢餓をゼロに』という目標があります。



どうしてこんなに飢餓の人が？
食べ物が足りていないのかな？

今、世界では何人の人が 飢餓に苦しんでいるの？

今、約億6億7300万人、世界人口の12人に1人が飢餓に苦しんでいます。多くはアフリカ・アジア・南アメリカの人々です。

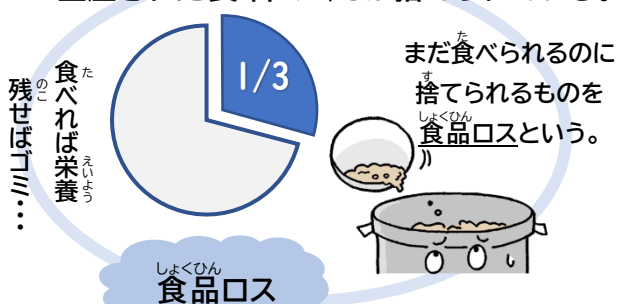
(2024年国連食糧農業機関(FAO)など5つの国連機関の報告書より)

いいえ、世界では、すべての人が十分に
食べられるだけの食べ物が作られているの
です。



世界では、食べ物は十分に作られている。すべての人が食べられないのはなぜ？

生産された食料の1/3が捨てられている。



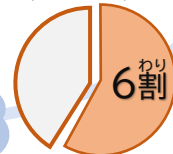
食品ロスの廃棄のため
CO2排出。



輸送でCO2排出。

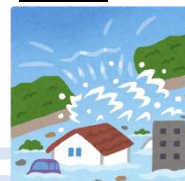
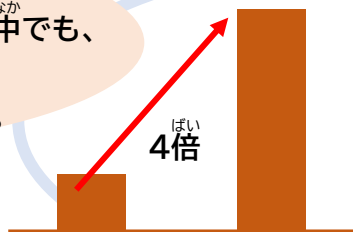


日本では食料の6割を
海外から輸入
(カロリーベース)



地球温暖化
異常気象

自然災害の数が
1970年代から
約4倍に増加。



飢餓の問題は、さまざまな原因があり、簡単には
解決できません。でも、わたしたちの生活の中でも、
できることがきつとなにかあるはず。
食べる幸せを世界の人々で分かち合おう。



貧困や格差

価格高騰

燃料や肥料の値上がり、
農作物の不作によって
食べ物の値段が上昇。



紛争の増加

紛争や異常気象などで
食べ物を育てられない。届かない...

食品ロス削減月間



10月は食品ロス削減月間です。みんなが「もったいない」という思いを持ち、行動することで食品ロスは減らせます。食品ロスを減らすために自分のできることから始めてみましょう。



日本の1年間の食品ロス量(最新は令和5年度推計値)

約464万t

食品メーカーや飲食店などからは約231万t、一般家庭からは約233万tの食品ロスが発生しています。

令和4年度推計値(472万t)から-8万tという結果です。引き続き食品ロス削減への取り組みをしていくことが大切です！

今日からできる食品ロスを減らす方法

一人ひとりの行動が大きな削減につながります。身近なことから始めてみましょう。

給食を残さずに食べる



すぐに使うなら、手前の商品を買う



必要な分だけ買う



期限表示を正しく理解する



食品ロスを削減することは、地球温暖化の原因ともなる二酸化炭素の発生を削減することができ、大切な自然を守ることににつながります。また、食料が不足して栄養不足に苦しんでいる世界の人人々に食料をいきわたらせるためにも取り組んでいかなければならない問題です。



志紀中菜園ニュース

今年のさつまいもは記録的な暑さの影響で残念ながら収穫にはいたりませんでした。

9月11日には大根の種植えをしました。大根はサイズが大きくなるため、隣の穴との間隔をしっかりと空けて植えることや、間引きをしやすいように種同士が近くなりすぎないように植えるなど、地域のかたの話を聞きながら、作業をしてくれました。12月の収穫まで、しっかり観察しながら育てていきましょう。

30cm間隔に穴をあけ、大根の種を4粒ずつ重ならないように植えました。

大根の種

